

ブータン王国の概要について

位置・気候・面積等（※外務省ホームページを参考に作成）

- 位置 首都 ティンブー（Thimphu）
- 面積 約38,394平方キロメートル（九州とほぼ同じ）
- 人口 約76.5万人（2014年：世銀資料）
- 民族 チベット系、東ブータン先住民、ネパール系等
- 言語 ゾンカ語（公用語）等
- 宗教 チベット系仏教、ヒンドゥー教等
- 国旗



ブータン王国

歴史・政治体制等（※外務省ホームページを参考に作成）

- 歴史 17世紀、この地域に移住したチベットの高僧ガワン・ナムゲルが、各地に割拠する群雄を征服し、ほぼ現在の国土に相当する地域で聖俗界の実権を掌握。

19世紀末に至り東部トンサ郡の豪族ウゲン・ワンチュクが支配的郡長として台頭し、1907年、同ウゲン・ワンチュクがラマ僧や住民に推され初代の世襲藩王に就任、現王国の基礎を確立。1952年に即位した第3代国王は、農奴解放、教育の普及などの制度改革を行い、近代化政策を開始したが、1964年、地方豪族間の争いに起因する当時の首相暗殺や、その後に任命された首相による宮廷革命の企み発覚を契機に、首相職が廃止され、国王親政となった。

1972年に16歳で即位した第4代国王は、第3代国王が敷いた近代化、民主化路線を継承・発展させ、王政から立憲君主制への移行準備を主導。2006年12月、第4代国王の退位により、現国王（第5代目）が王位を継承。2007年12月及び2008年の総選挙を経て、2008年4月に民主的に選出されたティンレイ政権が誕生し、5月には国会が召集され、7月に憲法が施行し、王政から議会制民主主義を基本とする立憲君主制に移行した。2008年11月に、現国王の戴冠式が行われた。

- 政治体制 立憲君主制
- 元首 ジグミ・ケサル・ナムギャル・ワンチュク国王陛下（第5代）
- 議会 二院制（上院 25 議席，下院 47 議席）

オリンピック関係

- 1983年：ブータンオリンピック委員会設立及び国際オリンピック委員会に承認
- 1984年：ロサンゼルスオリンピックにアーチェリーで初出場
以降、夏大会に毎回出場している。
- 2016年：リオデジャネイロでは射撃とアーチェリーで出場している。

※2017.4月現在、15の国内競技連盟がブータンオリンピック委員会に加盟している。